

Bank HapoalimはOL Hubでデジタルトランスフォーメーションを加速

開発時間を1/20に短縮し、イノベーションの道を開く



1/20

市場投入までの
時間を短縮

75%

基幹システムからのデジタル
イノベーションによるコスト削減

Bank Hapoalim は、1,100 億ドルを超える資産を有するイスラエル有数の銀行です。英国、ヨーロッパ、北米に子会社を持ち、一般銀行業務、商業銀行業務、クレジットカード、住宅ローン、保険、ウェルスマネジメントなどの幅広い金融商品を提供しています。Bank Hapoalim は、レガシーのデジタルイノベーションを拡張できるように、基幹システムとデータを扱いやすくなるための新しいアプローチを必要としていました。

マイクロサービス ■ IBMメインフレーム ■ z/OSコネクタ ■ アジャイル ■ OpenShift ■ DevOps



課題

ここ数年間で、イスラエルの金融業界では、デジタルバンキングがますます当たり前になってきました。消費者は、接続されたアカウント間でのナビゲーションや、ボタンを数回クリックするだけでさまざまな銀行業務を実行できる、オンラインデバイス間でのシームレスなバンキング操作を期待しています。

Bank Hapoalim は、消費者の期待に応え、市場のトップを走り続けるため、モバイルアプリを全面的に刷新することを決定しました。これは、社内で「Dor Shalosh」または「Generation Three」と呼ばれています。

しかし、開発の過程で摩擦や障害が発生しました。

多くの金融機関と同様に、Bank Hapoalim のアーキテクチャは、レガシーテクノロジー、具体的には重要な資産や情報が格納されている IBM メインフレームに構築されています。同行のテクノロジースタックは、IBM のメッセージ指向ミドルウェア MQ やエンタープライズサービスバス (ESB) など、メインフレームとの通信を促進する複数のレイヤーで構成されています。

同行の開発者は、ESB の最上部にさまざまな REST API を作成し、エンドユーザーにデジタル操作を提供していました。しかし、同行のモノリシックで高度にカスタマイズされたアーキテクチャは、ミドルウェアの複数のレイヤーと組み合わせられているため、API の開発とデプロイのプロセスには時間がかかり、手作業で行われていました。

当時、同行のチーフアーキテクトであった Bernard Ben Avi 氏は、「Bank Hapoalim は常にデジタルの先駆者であり続けてきましたが、このようなミドルウェアのレイヤーすべてでこのプロセスを進めることはできませんでした。デジタルサービスとメインフレームシステムをネイティブに直接接続するという近道が必要でした」と語ります。

さらに、既存のレガシー資産を見つけてそれにアクセスすることの難しさも課題となりました。Bank Hapoalim には何千もの SOAP サービスが存在していましたが、デジタルサービスで使用するためにそれらをカタログ化する体系的かつ効率的な方法がありませんでした。

最高情報責任者の Eti Ben-Zeev 氏は、再利用可能なレガシー資産の「マーケット」に対する強力なビジョンを持っていました。それは、デジタルサービスの開発をメインフレームシステムの深い知識の必要性から切り離すことにより、イノベーションを劇的に加速させるものでした。しかし、そのようなソリューションはまだ存在していませんでした。

最終的に同行は、ESB をバイパスしてメインフレーム上で直接デジタルイノベーションを可能にすると同時に、既存のレガシー資産の一元化と体系化を支援するソリューションを構想しました。



ソリューション

2012 年創立の OpenLegacy は、企業のモノリシック基幹システムを扱いやすくし、クラウド開発のスピードアップとシンプルさを実現できるよう支援しています。特許取得済みの統合テクノロジーにより、あらゆる業界の企業がメインフレームやミッドレンジシステムなどのレガシー資産から API を構築できます。

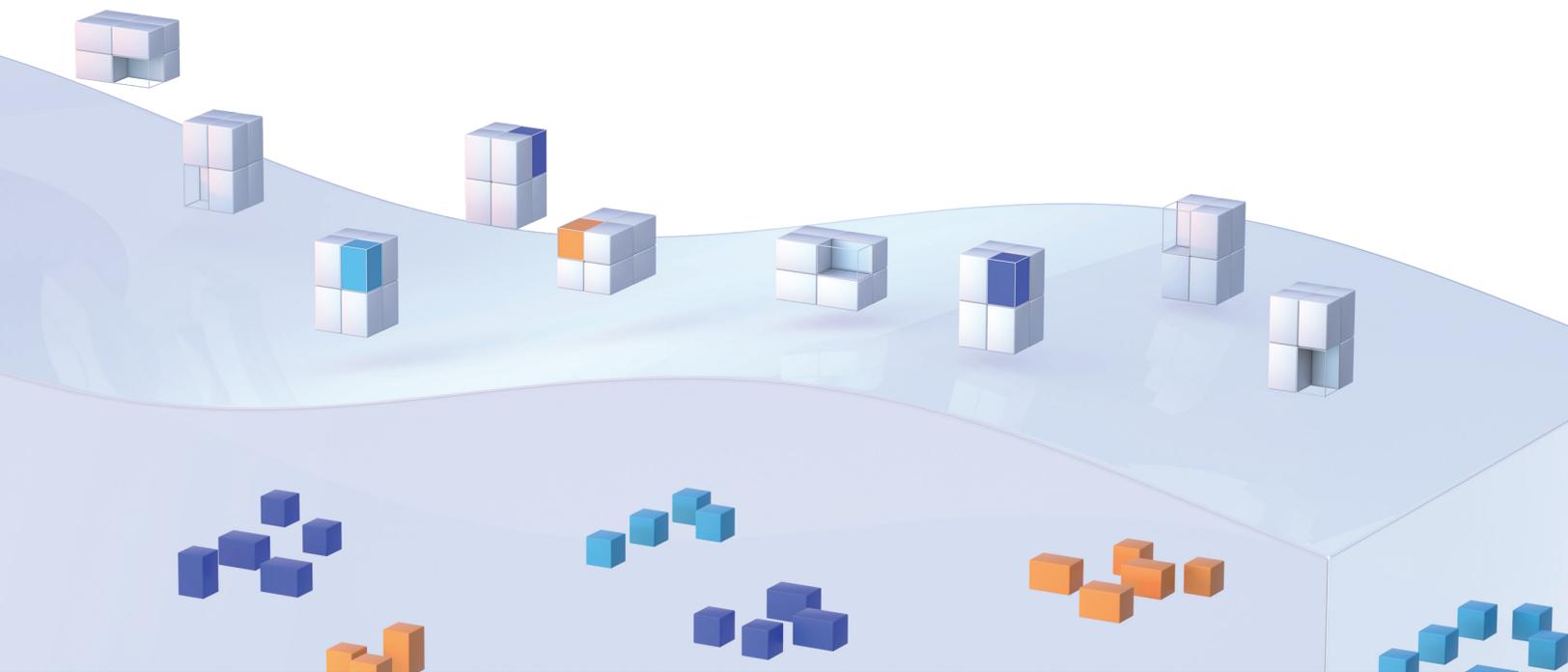
OpenLegacy が最近投入した主力製品である OL Hub は、同行のニーズに合致していました。Bank Hapoalim のようなクライアントと何年にもわたって提携した後、OpenLegacy は、レガシーシステムとの統合だけでなく、CIO の Eti Ben-Zeev 氏が思い描く「マーケットプレイス」を構築、維持することの課題について確認することができました。

OL Hub は、モノリシック基幹システムを使用する企業にクラウドネイティブ開発のスピードアップ、シンプルさ、標準化を提供するために構築された唯一のオールインワンのデジタルモダナイゼーションプラットフォームとして設計されています。OL Hub は、組織が基幹システムの資産を簡単に消費し、テストすることを可能にします。そして、企業は次のことをできるようになります。

- デジタルサービスの迅速な生成
- 基盤となるアプリケーションを変更することなく基幹システムの機能を拡張
- 検索可能で言語に依存しないリポジトリにすべての資産の包括的な単一ビューを作成し、再利用を容易にして標準的な環境でデプロイできるようにします。

OpenLegacy の CEO である Romi Stein は、「OL Hub は、真のデジタル化を促進する組織との協力から学んだすべてをベースに構築されています」と述べ、さらに、「Bank Hapoalim が OL Hub を使用して、レガシーインフラストラクチャの基盤の元に市場をリードするイノベーションを実現するというビジョンを達成できると確信していました」とも語っています。

OpenLegacy と Bank Hapoalim は、同行のデジタルトランスフォーメーションの取り組みを加速させることを目的とした契約の締結に合意しました。





結果

実装中、OpenLegacy チームは OpenLegacy プラットフォームを活用して、メインフレームからトランザクションコピーブックをインポートし、プロジェクト全体で再利用可能なモジュールとして生成し、自動的にテストと検証を行い、メタデータとドキュメントを強化しました。

これらのモジュールは、OL Hub でデジタルサービスを設計する際に、ソリューションセンターのすぐで使用できるスニペット、テンプレート、デプロイオプションと共に使用されます。たとえば、Bank Hapoalim チームは、OL Hub のポイントアンドクリックインターフェースを使用して、Red Hat OpenShift の Open Container Platform (OCP) に直接デジタルサービスを迅速に生成しました。

Bank Hapoalim の ESB インフラストラクチャをバイパスし、OL Hub がサポートする継続的統合、開発、バックエンドの自動化と組み合わせることで、同行の目標達成までの時間を短縮することができました。本番稼働の初日、チームは OL Hub を使用して 3 つの API を生成しました。その後、新しい API が次々と生成されました。

Bank Hapoalim は現在、定期的に OL Hub を使用してデジタルサービスを設計しています。同行によると、OL Hub により、レガシーシステムからデジタルサービスを開発する時間が、数日から数時間へと約 20 分の 1 に短縮されたと推定しています。

さらに、OL Hub は、デジタルサービスの設計におけるレガシー資産の利用方法を根本的に変えました。OL Hub は現在、同行のメインフレームトランザクションの包括的なりポジトリとして機能するようになり、新しい API を構築するたびに継続的に再利用可能となりました。デジタル開発者は、メインフレームに関する深い専門知識を必要としなくなりました。その結果、抜本的な合理化とさまざまなイノベーションが実現し、同行は第 3 世代のモバイルアプリなどの取り組みを通じて、より優れたカスタマーエクスペリエンスを提供できるようになりました。



OpenLegacy の協力により、API とマイクロサービスを 1 回のスプリントで構築できるようになりました。これまで何か月もかけて 1 つのマイクロサービスを作っていたのが、2 週間で 5 つのマイクロサービスが構築可能となり、真のレスポンスを実現できました。



Bank Hapoalim

「OL Hub により、メインフレームとのやり取りの方法が根本的に変わりました。」と Bank Hapoalim の変革部門マネージャーは振り返ります。「ESB をバイパスし、レガシー資産をイノベーションのエンジンとして活用しています。デジタル開発はかつてないほど迅速でスケラブルなものとなり、今後もたらされるどのようなテクノロジーの変化にも対応できるよう準備しています。」

OpenLegacyについて

OpenLegacy のデジタル駆動型統合により、レガシーシステムを使用している組織が新しいデジタルサービスをこれまで以上に迅速かつ容易にリリースできるようになります。最も複雑な基幹システムに直接接続できる OpenLegacy は、レガシー資産を新しいイノベーションに統合するために必要なデジタル対応コンポーネントを自動的に生成します。OpenLegacy により、業界をリードする企業が、わずかな時間とリソースを費やすだけで新しいアプリ、機能、アップデートをリリースし、迅速かつ容易に真のデジタル化を実現しています。